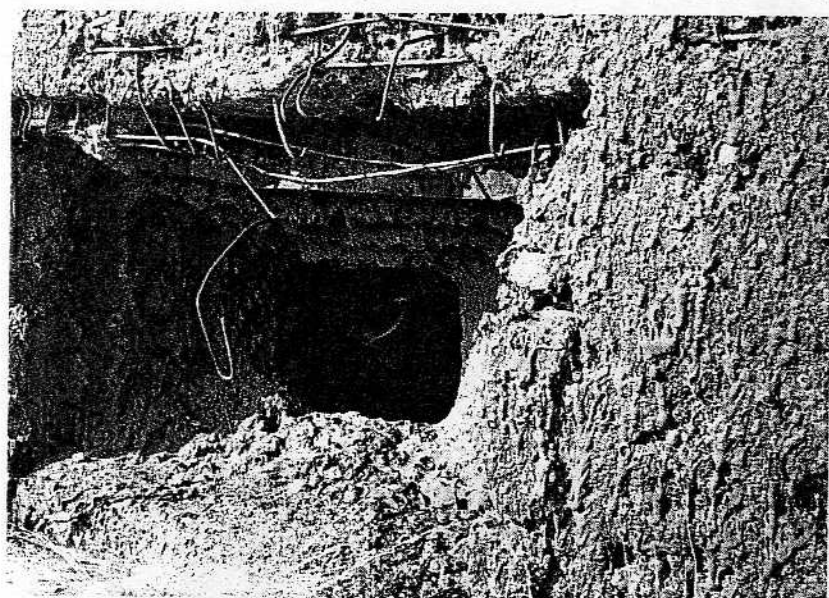


1991年11月14日(木)

才41回 官原功安全問題セ三

石田龍郎



核大国

ソ連・実験場閉鎖

①

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

「これが核実験場の地図だ。放射能汚染の状態が示してある」

セミパラチンスク核実験場の東端、カザフ共和国・クルチャトフ市の市民ホームの壇上で、イリエンコ・

死の大地…「石拾うな」

「核実験は国家的プログラムの下に国防大臣、環境エネルギー産業大臣の許可を得て重ねてきた。我々は実験場を閉鎖したくない。閉鎖しても、アメリカは実験を続けるからだ。だが、カザフ共和国の主権に反することは出来ない」

会見前、報道陣は二日間かけて実験場を巡った。東西約百五十キロ、南北約百九十キロ。面積約一万八千五百

自然放射能の400倍記録

のコンクリート肌が溶けて

核体制を支えた最重要拠点のひとつが、素顔を見せた。

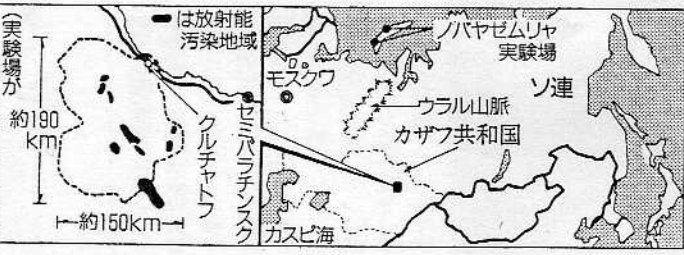
ソ連最大の核実験場「セミパラチンスク」がこの夏、カザフ共和国大統領の命令で閉鎖され、十月十七日、それを記念する現地集会が開かれた。主催は地元

の反核団体・NSM。米・ネバダ、南太平洋、広島

の被ばく者ら約七百人が集まった。「核五大国からソ連

が抜ければ『5-1』。一九九五年までに『5-15』を」を合言葉に、ソ連邦解体のうねりの中、反核のエネルギーがステップの丘に

一九九九年八月二十九日の第一回核実験爆心地近くにあるトーチカ。コンクリート肌



「文・写真」

1991年(平成3年)11月6日 水曜日

3版 (12)

核大国0へ

ソ連・実験場閉鎖

②

「共和国領土で核兵器の実験は禁止され、化学、細菌、生物などの実験場の活動も禁ずる」

手を組む被ばく地

一九九〇年十月に採択したカザフ共和国主権宣言一条。セミパラチンスク実験場を閉鎖に追い込んだのは、この宣言だった。閉鎖記念集会は十月十七日から三日間続いた。会場はセミパラチンスク市のセンター。英語、日本語、フランス語などが乱れ飛ぶ中、現地の反核グループ「NSM」の代表が勝利の報告をした。

「戦争の脅威に備えるといわれ、われわれは核実験に賛成してきた。われわれはソ連のために犠牲になった。だが、もう戦争の脅威

はなくなった。ソ連に実験も核実験を続けている。その被ばく者を代表してタヒ

閉鎖祝し各国集う 被害・反核訴える代表ら

記念集会で核実験による被害を訴える実験場近くの農村のお年寄り
「セミパラチンスク市

が演壇に。「実験はもう百三十回にもなる。健康障害だけでなく、フランスは漁業など経済も破壊している。実験阻止と独立が私たちの願い。各国の運動と手を組みたい」
米・オークランド市のジャッキー・カバソさんは、ネバダを語った。「実験場内に入って抗議するなど、市民の反対運動が粘り強く



続いている。みんな強く結びあおう」
カザフは草原の国だ。ジンギスハンの軍馬も疾駆した大草原の中に、セミパラチンスク実験場は広がる。周辺に集団農場の村が点々と連なっている。

初核実験爆心地に立った実験場の放射能安全対策責任者ツマゴロフ・アブサマト大佐によると、一九五三年八月十二日、同じ地点で初の水爆実験をしたという。威力は五百キトン。煙が八十メートル離れたサルジヤルやカラウル、カイナ

「あの水爆実験で村は放射能を浴びた。子供も七人いたが、がんなどで四人が死んだ。妻も私も体調が悪い。でも、何も言わずにきた。ゴルバチョフが書記長になって被害のことを話す気になり、連邦の国防大臣に何度も手紙を書いた」
広島県原水禁の横原由紀夫・事務局長は被爆国の立場から、会場にこう呼び掛けた。「まだ十分ではないが、日本では被爆者を守る法律を実現させている。新しい被ばく者をつくらせないと同時に、被爆者救済に取り組んできたヒロシマ・ナガサキの経験を伝えたい」と。

核大目0人

ソ連・実験場閉鎖

③

ソ連邦保健省は一九五七年、四十年間で四百回を超す核実験を重ねることになるセミパラチンスク実験場

近くに、「第四診療所」というさびげない名前で、住民の健康調査をする秘密の研究所を設立していた。

同研究所の報告書(九〇年)がまとめた汚染状況によると、五三年の水爆実験の数時間後、実験場南のカラウル村の被ばく線量は毎時150レントゲンに達したという。避難していた村人が再び村に帰った九日後でも、4万15万レントゲンを記録したとしている。

だが、二年前にできた連邦政府の調査委員会の挙げた数字はケタ違いに小

さい。実験が始まった四年から、大気中や地上の

浴びた総線量は37レントゲンに過ぎない、と推計している。

今回の実験

だ。

核実験による被ばくとの関係を説明し切れないの

気になった。だが、データは秘密にされている。フランスにとって、公表したくない数字なのだ。我々も同じ状況にある」

場閉鎖を記念

する集会上に

爆発したのか。村々の汚染状態、住民の被害を見極めるのに欠かせないデータ

長、ビカリエフ・アイコジ

は、IPPNW(核戦争防止国際医師の会)のソ連支部の医師も加わり、さまざまな報告をした。だが、多

実験場周辺住民の染色体異常について研究しているカザフ国立大学環境学部

情報欲しい」

集会は五つの核大目からソ連が抜ける「5-1」への第一歩を喜ぶ場ではあったが、厳しい空気にも包まれていた。

つかめぬ被害実態 周辺住民に染色体異常



実験場周辺の村には、さまざまな障害を持つ子どもがいた。中には、極端に成長の遅れた子どもの姿も。セミパラチンスク州スナメンカで

くが正確な情報、広範囲な統計で固めた数字をそろえない。

ヤ教授は「研究を始めて五年になるが、八九年までは秘密で研究しなければならなかった。いま、なんとか研究者のデータだけは集められるようになった」と打ち明けた。

集会で、仏領ポリネシア、タヒチ島フアラ市のテマル・オスカル市長は強い、精神障害も……。こんな訴えが次々と続くが、核実験による被ばくとの関係を説明し切れないの

気になった。だが、データは秘密にされている。フランスにとって、公表したくない数字なのだ。我々も同じ状況にある」

実験場周辺住民の染色体異常について研究しているカザフ国立大学環境学部

長、ビカリエフ・アイコジ

情報欲しい」

集会は五つの核大目からソ連が抜ける「5-1」への第一歩を喜ぶ場ではあったが、厳しい空気にも包まれていた。

実験場周辺の村には、さまざまな障害を持つ子どもがいた。中には、極端に成長の遅れた子どもの姿も。セミパラチンスク州スナメンカで

核大国0人

ソ連・実験場閉鎖

④

反核グループNSMは誕生して、まだ二年八カ月。だが、すでにソ連国内に十六支部、ベルリンにも一支部を持つソ連最大の草の根の組織になった。そして、早々とソ連を核五大国から抜け出させる「5-1」の第一歩、セミパラチンスク実験場閉鎖の成果を上げるなど驚くほどのエネルギーだ。

カザフ共和国のアマンバエフ保健大臣は十月二十一日、NSMの本部がある同国首都アルマアタ市で日本、フランス、ドイツの反核グループ代表約四十人と昼食をともにしながらスピーチした。「保健省は、世界の全核実験場の閉鎖を目指すNSMのアピール『5-1』を全面的に支持、さ

を求める共和国も、反核の立場を表明した。この日、スレイメノフNSM議長に、ロシア共和国のエリツィン大統領から祝電が届いた。電文には「NSMの運動を評価します。ロシア共和国も核実験場の閉鎖を検討している」とあった。

草の根組織に成果 被害者大会開催を約束

来夏、ベルリンで



ロシアもまた北極海に、セミパラチンスクに次ぐ大きな核実験場ノバヤゼムリヤ島を抱えている。百回を超す実験を重ね、大規模実験で知られている。これも閉鎖となれば、ソ連はほぼ全土で核実験の場を失うことになる。NSMも同島に近いアルハンゲリリスク市に支部を置き、支援の構えを取っている。

米、ソ双方で実験場閉鎖実現の願いを託している。この略称に、もう一つ「ノバヤゼムリヤ」の名を加えよう、との声が出た。

スレイメノフ議長は実験場閉鎖の記念集会で「核軍縮が進んでいるといっても、古い核兵器を捨てるだけで、このまま核廃絶に進むわけではない。世界の民衆の力で『5-1』を実現しよう」と締めくくった。

参加者は来年夏、ベルリンで再会し、「世界核被害者大会」を開くことを約束して、別れた。そこで、世界各地の様々な核被害者が一つにまとまる組織をつくることになる。

去年八月、広島での原水爆禁止世界大会(原水禁系)にNSM代表を招き、セミパラチンスクに世界の反核グループの目を向けさせた広島県原水禁の横原由紀天事務局長は言う。

「民族自立の勢いといえ、かつてカザフの運動は若々しい。実験場閉鎖の成果をあげたこのグループが世界の反核運動の主役を担う場面がこれからも増えるだろう」

文・写真
編集委員・中村征之
＝おわり

一般市民、農民らさまざまな人々が会場を埋めた核実験場閉鎖記念の集会。各国代表も加わり、来夏、ベルリンでの再会を約束した

セミパラチンスク市で